

中長期目標	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する	今年度の 重点目標	1 基本的生活習慣の確立 【あいさつ 時間を守る 身だしなみを整える】 2 基礎学力の向上 3 ふるさとキャリア教育の推進 4 地域との連携と情報発信 5 業務改善の取組
-------	---	--------------	---

年 度 当 初					評価結果 (2) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■頭髪服装指導に努めたが、指導にのらない生徒が一部いる ■問題行動については、各学年・分掌と連携して指導・対応し前年度比 30%減 ■遅刻者数は前年度比 20%増。特定の生徒が多い ■生徒会生徒を中心に挨拶運動を行ったが、「分離礼」「静止礼」の定着が不十分	■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組んでいる ■問題行動を繰り返す生徒が減少する ■遅刻者数を昨年度より 10%減少する ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する	■「進路にふさわしい頭髪・服装」について理解させ、自ら意識して身形を整えられるように粘り強く指導する ■生活指導、遅刻指導については、全職員で共通理解し指導できる体制づくりをし、粘り強い指導を続ける ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する	■進路にふさわしい頭髪・服装においては身なりを整えることのできる生徒とそうでない生徒の差が著しい。徹底した指導とならなかった ■頭髪について今年度基準の改正をした結果、再指導数は前年度比 50%減となった。最終指導まで残る生徒もいるが指導に乗らない生徒はいなかった ■問題行動については、指導件数（生徒指導部厳重注意以上）は昨年と変わらなかった。多くの生徒が規定を理解したうえで指導を受け入れ実践できているが、特定の生徒が繰り返し問題行動を起こした。今年度は指導に乗らない生徒が多かった ■遅刻については、前年度比 25%増であった。特定の生徒が遅刻を繰り返した。学年によっては、年度末に近づくにつれ遅刻者数は減少した ■「分離礼」「静止礼」の指導を行ったが、全体としては十分定着できていないと言え難い ■生徒会であいさつ運動を 2 回実施した。執行部・有志のクラブ・生活委員で行い、2 回目にはあいさつを返してくれる生徒も増えた。学校全体で挨拶をする生徒が増えている	B	■今後の進路指導において、多くの分掌、特に生徒指導部、進路指導部と連携し、規範意識の醸成を図る ■頭髪服装指導について、来年度は再指導者数の目標設定を上げる。引き続き全職員で基準の共通理解をする ■指導にはきちんと乗る生徒が多いので、社会人になるための意識付けを明確に行い、次年度に向け粘り強い指導を続ける ■遅刻指導について、「遅刻確認表」の活用を見直す。 ■「静止礼」「分離礼」が習慣化できるよう、授業時だけでなく機会をとらえて必要性を伝えていく ■あいさつ運動は引き続き実施し、生徒の自覚を促すことにより「あいさつの境総合」を復活させたい
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■学年会や教科担当者会を通して、生徒情報を積極的に共有できている ■全職員が連携し、要支援生徒に寄り添った支援を行うことができている ■朝読書の達成率が全体では 91.4%と目標(96%)には達しなかったが、昨年度(88.9%)より微増 ■境港市の協力や、各担任の創意工夫によって人権教育 LHR の内容がより充実した ■生徒会行事に生徒の意見を取り入れ、改革に着手	■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、生徒に寄り添った指導ができている ■朝読書の達成率 96% ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりができる ■部活動も含め生徒会活動が充実し、学校生活での満足度があがる	■職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、生徒に寄り添った指導を心がける。いじめアンケートやハイパー Q U の活用 ■読書喚起を引き続き行いながら、生徒の読書環境の充実に努める ■人権を配慮した生活面での援助や指導についても教職員の連携を図りながらいっそうの充実を図る ■生徒の意見を取り入れながら、伝統の継承と進化を引き続き検討し、魅力あるものを追求していく	■学年会や教科担当者会により生徒情報を共有することで、生徒の特性に応じた対応が可能となった。ただし、他学年の情報が伝わらないこともあった ■ Q U アンケートの結果について、支援を要する生徒の情報を確認し、担任と情報を共有することができたが、学年、学校全体で共有することができなかった ■朝読書の達成率が全体では 89.2%と目標には達しなかったが、学年ごとの取り組みが安定して成果を上げており全体的に充実した読書活動になった ■学年ごとに独自の人権講演会を行い、その後の LHR に結びついたものとなった。また、各担任の創意工夫によって LHR の内容がより充実したものとなった。職員研修については現地学習、講演会ともに充実した内容で実施し、人権に関するアンテナを高くはれる部分が増えた	B	■平素より生徒の発言・行動に課題がないかを考え、小さい問題から対応していけるように職員間の情報交換を大切にする ■ハイパー Q U に関して学年会等を活用して学年、学校全体で情報共有と検証の機会を持つ ■読書の動機付けや、学年別のアプローチを強化し、読書環境の整備を通じて、読書活動の充実を図る ■生徒の考える力を養う視点で、今後とも教材の豊富化を図る。また、人権を配慮した生活面での援助や指導についても教職員の連携を図りながらいっそうの充実を図る
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎力診断テストの結果に微増ではある効果が表れている ■ I C T 機器を活用した PBL (課題解決型学習) への取り組みが、少しずつではあるができるようになってきた	■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、マナトレや補習等を充実することにより、基礎学力が定着・向上している ■ I C T 活用の校内研修や研究授業を実施し、授業力が向上する	■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努めるとともに、効果の検証を行い、生徒自身が効果を実感できるよう、今後の実施の在り方を検討していく ■生徒一人一台導入導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、 I C T 機器の活用を更に推進する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講する	■多くの生徒は落ち着いてマナトレに取り組んでいるが、基礎学力向上につながっているかは継続して検証する必要がある ■基礎力診断テストの結果については、進路希望先の相談や就職推薦会議等の参考データとして活用している。 S P I の補習は数学科、作文・小論文指導は国語科が実施 ■数学や英語など生徒の理解度の差が大きい教科では、習熟度を基にしたクラス展開で少人数指導が可能となっており、生徒の理解度に応じた授業を工夫できている ■授業やクラス連絡、各種調査などで積極的に I C T 機器を活用できた	B	■次年度も引き続き、関係する各教科および各科、分掌と連携を図りながら指導していく ■継続してマナトレに真面目に取り組めるよう、担任・副担任で協力して雰囲気づくりを行う ■計画的に研修を行うことで、 I C T 機器を活用して得られた知識を共有するとともに、リモート授業が誰でもいつでもできるようなスキルを身につける
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■外部資源も活用し、地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている ■ 4 級海技士(航海) 3 名合格、 1 級小型船舶操縦士 5 名、スーパー農林水産業士 1 名取得 ■自動車整備士登録試験 7 名全員合格。 5 年連続合格率 100%達成 ■第 1 種電気工事士 7 名合格、第 2 種電気工事士 10 名合格 ■福祉科介護福祉士国家資格 13 名合格(14 名受験)	■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストが育成できている ■資格・検定試験の合格率が向上 ■各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果の発表が充実	■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させ、3 年間での計画的な資格取得に取り組めるよう指導する ■資格・検定試験に合格することで、生徒の自己肯定感を高めるため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すよう取り組んでいく	■産業界との交流を計画的に実施でき、生徒の就労意欲の向上につながられた ■進学者を対象として、高大連携事業を若鳥丸で行い、専門的な知識や興味の向上を図る取組を行っている(海洋科) ■実習施設との連携を密に図り、効果的な学習指導が実施できている。(福祉科) ■将来のスペシャリストを目指し、積極的に資格取得に取り組んでおり、各科で資格取得・検定のための補習を実施 ■スーパー農林水産業士 4 名取得、スーパー工業士 1 名取得 ■自動車整備士登録試験合格 82% 3 月実施の試験に向けて指導を継続する ■第一種電気工事士合格 6/9 第二種電気工事士合格 6/13	A	■継続して資格指導を計画的に実施し、資格取得に向かわせ、生徒に自信を付けさせることで、自己肯定感を養っていく
3 ふるさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■就職指導、進学指導ともに、多様な生徒状況に対応し、長期にわたって個別の指導に取り組んでいる ■キャリアパスポートは、内容を修正したが、改善すべき事項も残っており、検討が必要である ■すべての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた ■就職者の 1 次内定者が 98%であった。学科の専門に関連した企業への就職 88%、進学 51%	■進路指導計画に基づいた指導の徹底 ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導ができている ■インターンシップにより職業観・勤労観が身につけている ■進路ガイダンス、保護者説明会が充実している	■生徒状況の多様化、社会情勢に対応した業種・職種研究を深める。進学についても入試の多様化・長期化に対応し、情報の共有や連携体制を強化する。 ■キャリアパスポートの記入形式を見直し、学習、実習、資格取得等と連動させるなど生徒も教員も活用しやすい形式を検討する ■適切な時期での体験的学習活動を実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる	■3 ヶ年を見通したキャリア教育のため、企業見学、インターンシップ、社会人講師、キャリアパスポートなどを各担当者により適宜実施した ■ミスマッチを防ぐために応募前職場見学の充実を図り、多くの企業と連絡を取り合い、就職希望者は参加することができた。キャリアパスポートは、昨年度の反省点から内容を大幅に変更したが、改善すべき事項が残っており、検討が必要である ■インターンシップについて、生徒アンケートからは「体験ができて良かった」「コミュニケーションの大切さを知った」「実際の職場の様子がよく分かった」という声が多くみられた ■支援の必要な生徒の就職、進学指導について担任団、進路指導部と連携をし、保護者への必要な情報提供や生徒への個別指導を続け、進路実現へとつなげることができた	A	■来年度も引き続き、関係する各教科および各科、分掌と連携を図りながら指導していく ■キャリアパスポートの計画的な実施と指導体制を確立する ■インターンシップは引き続き実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる ■支援の必要な生徒の進路について、進路指導部や外部機関との円滑な連携を図る

年 度 当 初					評価結果 （ ２ ） 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■実習製品の販売会は、延べ1400人の来場者があった。メルカリショップスとの連携も株式会社きさらぎと共同で進めることにより本校の実習製品を全国にPR、販売することができている ■総合技術フェアを地域に公開し昨年の1.89倍となる769名の来場者があった 「学校の雰囲気が良い」92%→96% 「将来職業に就いてから役に立つと思う」95%→96% 「生徒の頭髪服装やマナーなどの指導が十分になされている」89%→92% ■コロナ禍での経験不足や生徒意識の変化などからか地域ボランティア活動に意欲的に取り組む生徒は減ってきている	■地域連携・地域交流活動を通して、生徒が自信を持つとともに、経験値を上げ、役立ち感、有用感を得られている ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材が育成されている ■地域と連携したボランティア活動・実習等ができている	■地域や学校、各科生徒にとって学びの多いイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を継続的に行っていく ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う	■各科とも地域イベント等に積極的に参加し、地元企業や関連団体等と連携した取り組みを実施した。生徒会も高校生の意見を取りいれるイベントなど参加した ■水中ドローンを活用とした研究結果の資料提供を行い、地域に貢献している ■総合技術フェアの来場者数は705名 来場者アンケート結果で「よく当てはまる」の回答割合の昨年度比 「学校の雰囲気が良い」63%→70% 「将来職業に就いてから役に立つと思う」58%→76% 「接客販売や体験指導など生徒は積極的に取り組んでいる」62%→81% 「生徒の頭髪服装やマナーなどの指導が十分になされている」53%→69% ■ボランティア活動に積極的に参加する生徒と、参加しない生徒に二極化している ■クラスの人間関係や仲間づくり等につまずきのある生徒や支援の必要な生徒に対しての授業時間外（放課後）、休日の地域活動やボランティア活動への参加をサポートした	A	■企業連携を深め、地域貢献の活動をさらに充実させる ■総合技術フェアでは、本校のキッチンカーも取り組みに加わることとなるため、催しの幅を広げたい ■現在の執行部は福祉科の生徒が大半を占め、また、部活動に取り組んでいる生徒が多いため、地域のイベントへの参加をより広く全校に呼びかける ■地域活動やボランティア活動への取り組みせ方の工夫や学習活動への位置づけの周知理解、保護者への理解協力を仰ぐなど、コーディネート力を高められるようにする
	学校教育活動の情報発信	■公式SNS・学校webページにより、学校行事や各科の取り組みなど積極的に情報発信することにより、本校の教育活動について保護者や地域の理解を深められた ■入学案内パンフレットに「卒業生からのメッセージ」も掲載し、卒業後の進路をより詳しく紹介できるようにした	■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解が深まっている ■適切な情報発信により、志願者が増加する	■方法や機会を工夫し、生徒・保護者・マスコミ等に対して的確な情報発信に努める ■令和6年度は「地域みらい留学」へ参加しネットだけでなく対面で県外の中学生へもPRする	■各種事業はすべてプレスリリースを行い、すべてマスコミに取り上げられている ■学校行事や各科の校外等での取り組みをSNS・webで随時発信している ■総合技術フェアでのSNSについてのアンケート 「見ない」53%→30%、「Instagram」19%→26%、「Facebook」5%→1% 「X」1%→5%、「TikTok」9%、「YouTube」12%、「HP」16%→17% ■校内と各家庭に向けて生徒会新聞を発行し、生徒の活動を発信した	B	■SNS、web、パンフレットなど継続して情報発信に努める ■生徒会新聞の発行頻度がさらに高まるように年間計画を立て取り組む
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	■校内情報共有DBなどを活用し、資料や情報を事前に配布、周知することにより、会議などの時間短縮に努めている。一方でDBの確認不足で、必要な連携や情報共有が不十分になることがある	■会議・委員会の整理、統廃合など業務改善に取り組み、充実した教育活動ができている	■協議、連絡・報告について、事前に関係との話し合いを密にし、必要な情報は自ら確認する	■校内情報共有データベース、メール等を活用し、事前に会議資料を配布することで、会議時間の短縮に努めた ■業務の見直しを行い、業務改善を図った	A	■DB、メール等共有すべき情報の確認を徹底する ■生徒情報や生徒対応はスピード感が必要であるため、常に連絡、連携が取れる体制を徹底する
	長時間勤務者の解消	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行っている ■時間外勤務削減は、ほぼ目標を達成している	■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■業務内容を見直すとともに、時間外業務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める	■教員の帰宅時間が早くなっており、時間外業務が減少していることが実感できる。 ■勤務時間の振替、割振りを行い時間外業務削減に努めた ■特別支援生徒の増加と多様化により特定の教員に負担がかかっている実態がある	B	■業務分担の適宜見直し、全体で連携できるよう情報共有を図る

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕